

日照不足等に対する技術対策

水 稲

[想定される影響]

- ①軟弱徒長に生育しているため、病害に対する抵抗力は弱く、特に葉いもち病の発生が多く、今後穂いもち病の多発も予想される。(病害虫発生予察情報参照)
- ②稲の葉色が濃く、茎も細く、倒伏の可能性も高くなる。
- ③出穂期はやや遅れる可能性が高い。

[対 策]

- ①生育ステージにかかわらず間断灌水を励行し、根の活力維持に努める。
- ②穂肥は水稻の生育診断(幼穂長、葉色)に基づいて施肥量、施肥時期の調整を行う。
- ③葉いもち病が多く発生している場合は、直ちに防除を行い、穂肥を控えめにする。

また、出穂期に注意して、適期に適切な穂いもち防除を行う。(病害虫発生予察情報参照)

※ただし天候が回復し好天が続く場合は、乾きすぎに注意する。(特に幼穂形成期～開花期の乾燥は収数減、登熟期間の過乾燥は品質低下を招く)。

※台風通過時は深水管理とする。

大 豆

[想定される影響]

- ①長雨が続き中耕培土ができていない圃場では、雑草の多発生や湿害による生育不良が発生している。
- ②播種の遅れや湿害により生育不足、生育不良が発生している。

[対 策]

- ①停滞水がある場合は落水を行い、排水対策を徹底する。
- ②倒伏防止と根への酸素供給、雑草対策のため、開花期までに2回の中耕培土を行う。
- ③必要に応じて中期除草剤を使用し、雑草防除を確実にを行う。